

教育プログラムの紹介と組合せ事例

プログラムの組合わせ例2

チームで課題解決に取り組む

1 学期

・チームコンセンサスワークショップ

教員の希望

チームで課題解決に取り組む長期間のプログラムを実施する前に、チームで協力する意味や、課題解決型のプログラムが社会人となるために必要な力を育てるものであることを考えさせたい。

1 学期

チームコンセンサスワークショップ

連続2コマ×1回

<NPO法人16歳の仕事塾>

- ▶ サバイバルゲームのような問題文を読み、最初は個人で考えその後チームで話し合い、チームとしてコンセンサスをとり一つの意見にまとめる。
 - ▶ 各チームの意見を発表する。
 - ▶ 個人の答えと正解、チームの答えと正解との誤差を出し、その結果から話し合いがどうだったのかを振り返る。
- チームで論理的に話し合う方が、個人で考えるよりも良い結果になることが点数で分かるプログラム。「少数意見を大切に」「多数決で決めない」など社会に出た時の話し合いの仕方を体験する。クラス内の関係づくりやその後のグループワークにも役立ちます。

カスタマイズのポイント

グループ活動の経験が少ない場合や、新学期早い時期の実施の場合には、個人の考えをまとめる時間、グループでの意見をまとめる時間を長くとしています。

複数のプログラムを実施できる団体が増えています。

生徒の様子分かることで、組合せや内容について相談しながら進めていくことができます。

2 学期

社会人基礎力ワークショップ

連続2コマ×1回

<NPO法人16歳の仕事塾>

- ▶ 経済産業省が推進する、多様な人々と仕事をしていく上でますます重要になる「社会人基礎力」について知る。
 - ▶ 社会人と学生の違いを考える。
 - ▶ 今の自分の「社会人基礎力」をワークで自己診断する。
 - ▶ 「紙タワーづくり」のグループワークを通して、課題に取り組んだ時の「社会人基礎力」を実感する。
- かなり内容の多いプログラムのため、事前打合せで、当日に使用する資料全体を説明し、ワークの方法や時間配分等を相談して実施します。
- 職場体験の前等、社会人が働く姿を見る機会の前に実施すると、「社会人基礎力」の意味と必要性についての理解が深まります。

2学期

・社会人基礎力ワークショップ

3学期

・クエストエデュケーション

2学期

3学期

クエストエデュケーション 「企業探究コース」

14コマ以上

<株式会社 教育と探求社>

実在する企業におけるインターンシップを教室で体験できるプログラム

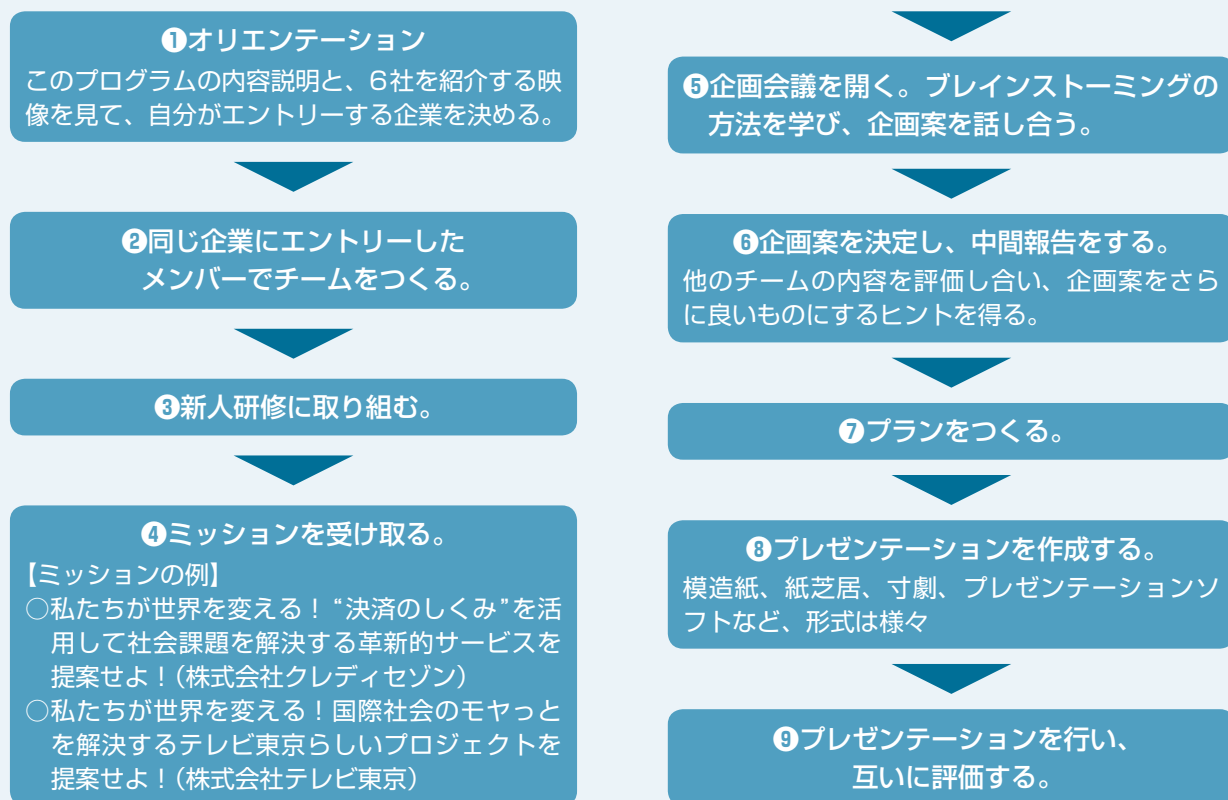
平成27年度協賛企業

株式会社エイチ・アイ・エス、オムロン株式会社、株式会社クレディセゾン、大和ハウス工業株式会社、株式会社テレビ東京、富士通株式会社

■長期間にわたるプログラムですが、各企業のインターンとして、事業内容や社会における役割、企業文化などに触れることで職業観・勤労観について意識するようになります。また、チームでの活動を通して、役割分担、意見をまとめること、他人に説明すること等の実社会で必要となる様々な力を養うことができます。全国で約80校の中学・高校が導入しています。クエストカップ全国大会があり、平成26年度の大会には、1465作品の応募がありました。



企業探究コース 実施例



◆クエストエデュケーション「進路探究コース」もあります。前半は、日本経済新聞のコラム「私の履歴書」を題材にして、実在する人物について年表作成に取り組みながら生き様に触れ、多様な人生観や職業観を知った上で人物ドキュメンタリー作品を作成。後半では、自分自身の過去と未来の履歴書を作成する中で、情報収集力、論理的思考力、プレゼンテーション力等を身に付けることができます。